

2017年(平成29年) 9月22日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/7~9/13のNYMEX・WTIは、47.48~49.30ドルの範囲で推移した。

9月14日は、前日国際エネルギー機関(IEA)が月報で、OPECの5ヵ月振りの減産、2017年の世界石需要見通しの上方修正を示したこと、製油所の順調な操業再開により米国内の供給過剰感が後退したことから、4日続伸した。10月限の終値は前日比0.59ドル高の49.89ドルだった。

週末15日は、新たな材料の少ない中、売り買いが交錯し、一時50ドル台を回復したが、結局、横ばいで終わった。ペカーヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数は749基(前週比7基減)だったが、買い要因とはなかったものの市場への影響は限定的だった。10月限の終値は前日比横ばいの49.89ドルだった。

週明け18日は、朝方、高値水準での利益確定売りが先行したが、リグ稼働数の減少、IEA月報での需給均衡に向けた期待感等で買いが入り、わずかに値上がりした。10月限の終値は前週末比0.02ドル高の49.91ドルだった。

19日は、協調減産の期間延長・減産幅の拡大等を検討中とのイラクのルアビ石油相の発言、サウジの7月輸出量の前月比日量20万バレル削減等の報道があったものの、EIAから、10月の米シェールオイルが10ヵ月連続の増産見通しの報告もあり、反落した。10月限の終値は前日比0.43ドル安の49.48ドルだった。

20日は、EIAの米国在庫週報で、原油在庫は3週連続の増加となったものの、ガソリン・中間留分在庫が大きく減少したことから大幅反発し、7月31日(50.17ドル)以来2ヵ月振りに50ドル台を回復した。10月限の終値は前日比0.93ドル高の

50.41ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、前週52.40~53.40の範囲で推移した。9月14日53.50ドル、15日53.80ドル、19日53.90ドル、20日53.80ドルで推移した。

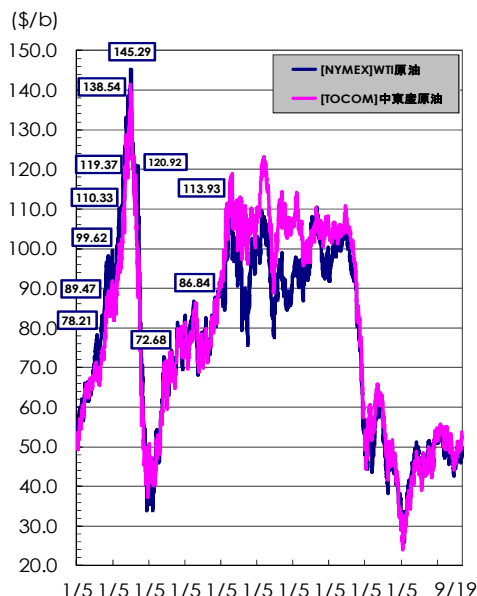
為替は、前週108.40~110.14円の範囲で推移した。9月14日110.65円、15日は110.21円、19日111.46円、20日111.63円で推移した。

財務省が20日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、34,235円/klとなり、前旬を138円上回った。ドル建てでは49.41ドルで前旬比0.41ドル高。為替レートは1ドル/110.15円。また、同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、8月の原油輸入平均CIF価格は、34,112円/klとなり、前月を64円上回った。ドル建てでは48.95ドルで前旬比0.61ドル高。為替レートは1ドル/110.78円。

主要元売会社の9月第4週に適用する卸価格は、全社1.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、9月19日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同横ばいだった。ガソリンは3週振りの値上がり、軽油は3週振りの値上がり、灯油は8週連続の横ばいだった。この週(9月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、1.0~1.5円の値上がりとなった。

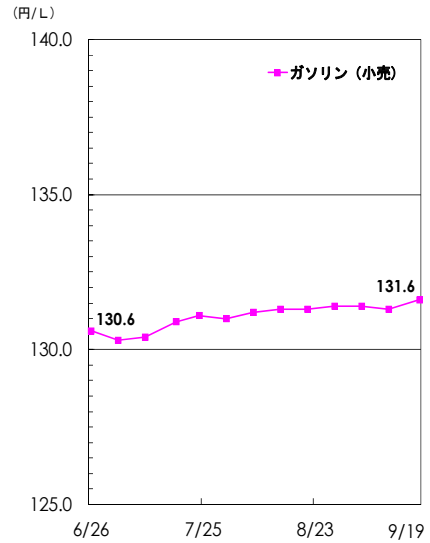
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/10 ~ 9/16	3,579 ▲ 33	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	91.4 ▲ 0.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/16	13,805 ▲ 132	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	9/19	53.93 ▲ 1.70	▲ 11.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	9/18	49.91 ▲ 1.84	▲ 6.6
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	8月下旬	49.41 ▲ 0.41	▲ 4.01
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	34,235 ▲ 138	▲ 4,720
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.15 ▲ 0.46	▼ -6.80
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/19	112.46 ▼ -3.02	▼ -9.51



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/10 ~ 9/16	980 ▼ -33	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	895 ▲ 18	▼ -	
	輸出	"	21 ▼ -51	▲ -	
	在庫	9/16	1,776 ▲ 64	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/12 ~ 9/15	50.7 ▲ 0.8	▲ 8.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/12 ~ 9/15	51.3 ▲ 1.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部)	9/15	51.1 ▲ 1.1	▲ 9.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/19	131.6 ▲ 0.3	▲ 8.7	

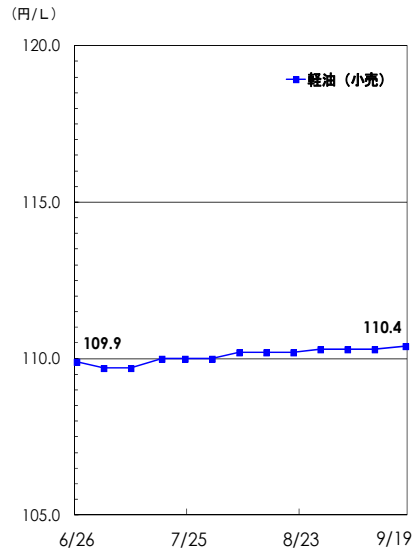
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

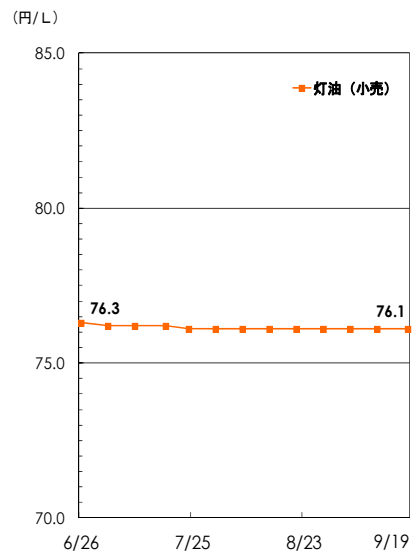
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/10 ~ 9/16	744 ▼ -163	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	599 ▼ -15	▼ -	
	輸出	"	238 ▲ 35	▲ -	
	在庫	9/16	1,409 ▼ -94	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/12 ~ 9/15	48.9 ▲ 0.6	▲ 10.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/12 ~ 9/15	48.3 ▲ 0.3	▲ 9.3
		(TOCOM/中部)	9/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/19	110.4 ▲ 0.1	▲ 7.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/10 ~ 9/16	210 ▲ 77	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	123 ▼ -40	▲ -	
	輸出	"	37 ▲ 37	▲ -	
	在庫	9/16	2,378 ▲ 51	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/12 ~ 9/15	49.4 ▲ 1.2	▲ 12.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/12 ~ 9/15	50.1 ▲ 1.0	▲ 11.3
		(TOCOM/中部)	9/15	50.3 ▲ 1.8	▲ 12.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/19	76.1 ▲ 0.0	▲ 12.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月20日のNYMEX市場WTI原油は米国エネルギー情報局(EIA)が、米国週間在庫統計で、原油在庫が前週比460万バレル増と、市場予想(同350万バレル増)を上回る増加の一方で、ガソリン在庫の同210万バレル減、中間留分在庫の同570万バレル減と市場予想を大きく上回る減少により、石油需給の均衡への期待感を反映し、続伸、50ドル台を回復、7月31日(50.17ドル)以来約2か月振りの高値を記録した。10月限の終値は、前日比0.93ドル高の50.41ドル、11月限の終値は前日比0.79ドル高の50.69ドルだった。

EIAによると、9月18日時点のガソリンの小売価格は前週比5.1セント値下がりの1ガロン2.634ドル(77.3円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.6セント値下がりの2.786ドル(81.7円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値下がり、ディーゼルも4週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月10日～9月16日に休止したトッパー能力は10.0万バレル/日で、前週に対して横這いであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は357.9万klと、前週に比べ3.3万kl増加。前年に対しては9.9万klの増加。トッパー稼働率は91.4%と前週に対して0.9ポイントの増加、前年に対しては9.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.2%減、ジェット/24.0%減、灯油/57.3%増、軽油/17.9%減、A重油/8.1%増、C重油/5.5%増。今週のC重油の輸入は0.4万kl(前週比0.9万kl減)。軽油の輸出は23.8万kl(前週比3.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は89.5万kl(対前週2.1%増)と2週振りに前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット11.0万kl(対前週59.9%増)、灯油12.3万kl

(対前週24.9%減)、軽油59.9万kl(対前週2.4%減)、A重油20.5万kl(対前週6.2%増)、C重油17.8万kl(対前週6.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (9/10 ~ 9/16)	前週 (9/3 ~ 9/9)	前週比	
ガソリン	895	877	▲ 18	(2%)
ジェット燃料	110	69	▲ 41	(59%)
灯油	123	163	▼ -40	(-25%)
軽油	599	614	▼ -15	(-2%)
A重油	205	193	▲ 12	(6%)
C重油	178	191	▼ -13	(-7%)
合計	2,110	2,107	▲ 3	(0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月16日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは177.6万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては7.2万kl多い。

灯油は237.8万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては40.1万kl少ない。

軽油は140.9万kl、前週差9.4万kl減。前年に対しては38.3万kl少ない。

A重油は77.0万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては4.0万kl多い。

C重油は210.2万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては1.6万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (9/16)	前週 (9/9)	前週比	
ガソリン	1,776	1,712	▲ 64	(4%)
ジェット燃料	1,026	1,040	▼ -14	(-1%)
灯油	2,378	2,327	▲ 51	(2%)
軽油	1,409	1,503	▼ -94	(-6%)
A重油	770	776	▼ -6	(-1%)
C重油	2,102	2,087	▲ 15	(1%)
合計	9,461	9,445	▲ 16	(0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月12日から15日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン104円台で堅調、軽油48～49円台で堅調、灯油48～49円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン106～107円台で堅調、軽油50円台で堅調、灯油48円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン104～105円台で堅調、軽油48～

49円台で値上がり、灯油49～50円台で堅調に推移した。
元売の卸価格は、全社1.0円の値上げだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月12日から15日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、陸上・海上・先物ともに全油種で、値上りした。

9月第3週(9月21日～27日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月12日～15日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.8円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.0円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油が0.3円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替の円安が加わり、原油コストは値上がりだった。

9月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (9/12～9/15)	前週 (9/5～9/11)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	50.7	49.9	▲ 0.8
	灯油	49.4	48.2	▲ 1.2
	軽油	48.9	48.3	▲ 0.6

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (9/12～9/15)	前週 (9/5～9/11)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	51.3	50.3	▲ 1.0
	灯油	50.1	49.1	▲ 1.0
	軽油	48.3	48.0	▲ 0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/12～9/15実績値)				(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均			
ガソリン	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.9			
灯油	▲ 1.2	▲ 1.0	▲ 1.1			
軽油	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 0.4			
A重油	▲ 0.6					

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の131.6円、軽油は同0.1円高の110.4円、灯油は横ばいの76.1円だった。ガソリンは3週振りの値上がり、軽油も3週振りの値上がり、灯油は8週連続の横ばいだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは34都県、横ばいは6府県、値下がり7道府県、全国最安値は埼玉県(127.3円(同0.4円高))、次が徳島県(128.7円(同1.2円高))、最高値は沖縄県の140.5円(同0.2円高)だった。最も値上がりしたのは、1.6円高の富山県(132.5円)、最も値下がりした県は、0.9円安の和歌山県(130.3円)、横ばいは、高知県・愛媛県・福井県・京都府・岐阜県・岡山県だった。

原油コストは値上がりし、3週振りでガソリン小売価格は値

上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、全社1.0円の値上げとなった。次週(9月25日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)				
		今週 (9/19)	前週 (9/11)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	131.6	131.3	▲ 0.3	08/8/4	185.1
	灯油	76.1	76.1	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	110.4	110.3	▲ 0.1	08/8/4	167.4

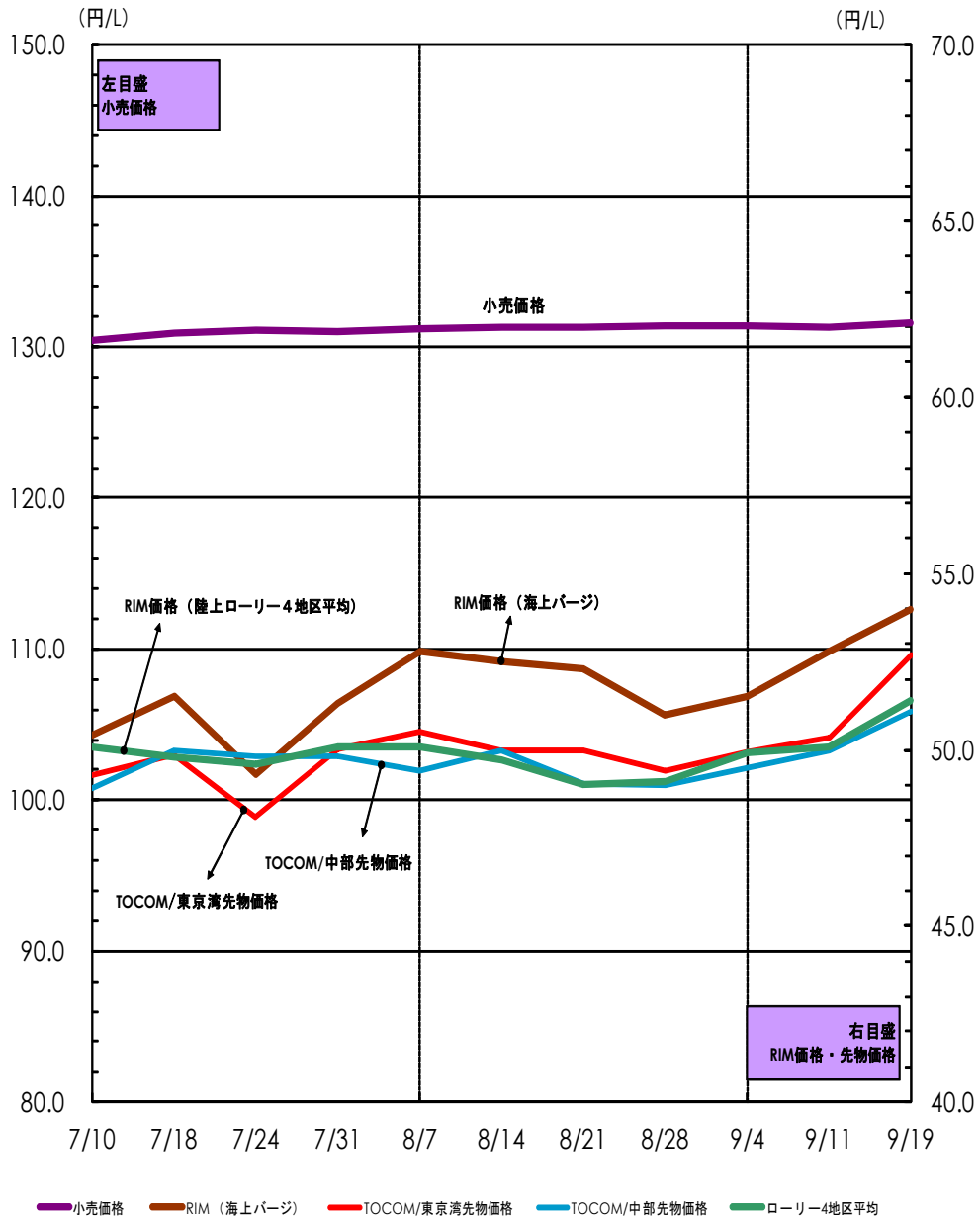
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/7/10 ~ 2017/9/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第24号)の公表は、9/29(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。